

第3回 市民一人ひとりが輝く都市第1分科会 議事要旨

1 開催日時

平成26年2月21日(金) 15時00分～17時00分

2 会場

久留米市役所 13階 1301会議室

3 出席委員(順不同)

委員9名

市丸祥子委員、井手信委員、岡リツ子委員、片岡靖子委員、中山末男委員、永延桂子委員、堀田富子委員、渡邊由美子委員

4 欠席者

委員3名

北里誠也委員、白水美弥子委員、芹田隆子委員

5 議事

(1)分科会審議結果の報告について

①次期基本計画における重点課題について

②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

6 その他

発言要旨

1. 開会

■事務局より、過半数の委員が出席していることにより、会議が成立していることを報告

配布資料の確認(次第、第2回議事録、北里誠也委員からの報告案への意見、資料)

資料についての内容の説明(部落差別の実態や市民意識の状況、男女共同参画に係る現状や市民意識の状況、障害者に係る制度改正や市民意識の状況等)

2. 議事

(1)分科会審議結果の報告について

①次期基本計画における重点課題について

■事務局より説明

○永延桂子委員

黒丸の1番目について、「核家族化の進展」とあるが、本当にそうなのか疑問である。厚生労働省の国民生活基礎調査の結果では、夫婦だけの家族は多くなっているが、核家族と定義される家族全体の進展は数字的にはほとんどない。昭和50年度が58.7%、平成22年度が59.8%という割合になっている。市の場合は、平成7年度が57.2%で、平成22年度は54.6%とむしろ減っている。

■事務局

確かにおっしゃるとおり。「核家族化の進展」という言葉を使っているが、今は単独世帯であるとか、高齢者世帯のほうが伸び、核家族の割合は伸びていない。逆に下がって、高齢者の世帯の割合が上がってきているという状況であり、従来からよく使われる表現を安易に使っている感じがする。この言葉の意味としては、多世代で子育てを教え合うようなことがなかなかできなくなっているという家庭環境の変化と、地域社会全体をみたときに、隣近所で、子どもに色々教えるというような地域コミュニティの繋がりが希薄化していること。家庭と地域の両方がそういう状況になってきており、子どもが成長していくときに、必要なことを学ぶ機会が減少しているという意味合いで使っている。最終段階では、今の実情に合ったような表現で、もっと丁寧に記載したい。

○片岡靖子分科会長

「核家族化の進展」というのは、適切な使い方ではないだろうという意見だった。家族機能の低下のような意味合いで、適切な言葉に変えていくことでよろしいか。

他に意見や質問等なければ、「核家族化の進展」の部分は、現状に応じた適切な文章に変えるということで了承いただき、文面については、正副の分科会長に一任いただいてよろしいか。

では、次に②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について事務局より説明をお願いします。

②取り組むべき施策や課題、施策(小分類)内容について

■事務局より説明

○片岡靖子分科会長

まず、第1節「人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち」について、意見や質問があればお願いします。なければこの第1節は、この案文どおり報告させていただきたいと思う。

それでは、次の第5節に移る。「子どもの笑顔があふれるまち」について、意見や質問があればお願いします。

○市丸祥子委員

第 5 節の一番上。情報化社会の進展による情報の氾濫でいじめや心の病が生じるとあるが、いじめの原因はこれだけではない。人間関係の希薄化とかも関わりがある。現実問題としては、いじめはどの学校では起こりうるかと私たちは受け止めているので、情報の氾濫だけが要因ではない。情報も一つの要因ではあると思うが。

○片岡靖子分科会長

この部分については、前回、情報化社会による弊害という意味で出てきた文面だったと思う。

○市丸祥子委員

先ほども、家庭機能の低下とか、地域社会の希薄化、人権問題などが議論されたが、子どもたちの中でも格差が生じるなど、いろいろと込み入っている。これだけを読むと、情報の氾濫からのみ、いじめや心の病等が生じるというふうに見える。

○片岡靖子分科会長

前回の議論の焦点は「情報化社会の進展」にあったので、市丸祥子委員の提案は、逆に言えば、いじめや心の病に焦点を当てた問題提起だと思う。

■事務局

この部分は、情報化社会の進展から生じる問題として、前回、議論があったので、その趣旨で書いている。いじめ自体の問題ではなく、情報化社会で、いわゆるラインの中での差別とかの話が出ていたので、それを受けた表現で整理している。

○片岡靖子分科会長

骨子案の 13 ページを見ると、いじめについて、または子どもの貧困について具体的には書かれていない。この文面については、情報化社会をもたらす様々な弊害という位置付けでの文面でよろしいか。

○井手信委員

「2 子育て、子育てを支える地域づくり」の中で、「情報化社会の進展」ということが議論されていると思うが、文章にしてしまうと、ここの項目とずれるように感じる。私が前回、情報化社会のことを言ったのは、市が行政を進める中で、情報を使ってとか、もっと市民に提供したりするという意味の「情報」だった。

■事務局

井手信委員が、総論的に情報化の進展についてというところでは、「重点課題について」のところでは整理をさせていただいた。今議論されている部分については、今日、お配りした議事録の 8 ページ辺りにまとめているが、白水美弥子委員から「情報の氾濫から子どもたちを守る教育というものを入れてほしい」という発言があり、その趣旨を踏まえたものである。

それを受けて、渡邊由美子委員から「スマホなどでの情報の氾濫による犯罪の危険から子どもたちを守る」という趣旨の発言がある。これらを受けて、「健全育成」のニュアンスを含め、このような整理をしている。

○渡邊由美子委員

「2 子育て、子育てを支える地域づくり」は、学校教育そのものではなく、地域の課題をまとめたもの。市丸祥子委員が言われた、いじめや心の病の要因が、学校現場のことを踏まえると、情報の氾濫のみに止まらないことを書くとしたら、「3 未来へつながる教育の推進」で書いたほうが良いという気がする。

○片岡靖子分科会長

渡邊由美子委員から、情報化社会についてはこのまま「2」に置き、市丸祥子委員が言われたいじめの問題、心の病の問題については「3」に新たに書いてはどうかという提案があった。

○市丸祥子委員

いじめを入れていただくのは非常にありがたいが、まだ文章が練れておらず、検討させていただきたい。

○片岡靖子分科会長

では、第 5 節、この文面については、市丸祥子委員の案もいただいて、正副分科会長に一任させていただいてよろしいか。

○委員一同

はい。

○片岡靖子分科会長

それでは、第 6 節を検討いただきたい。特に第 6 節については北里誠也委員の提案もあり、併せて審議いただければと思う。まず、北里誠也委員の提案については盛り込んでいくということでよろしいか。

○永延桂子委員

うつ病と認知症の 2 つだけがここにあげる理由が不足しているのではないか。

○片岡靖子分科会長

うつ病、認知症だけ取りあげているが、その理由、もしくは、それだけでいいのかというご意見だった。認知症については、長生きをするようになって増えており、その対応については政策的にも大きなターゲットとなっていることから、おそらく書かれたのではないかと推察する。ただ、この 2 つの病名に限るとするのは少し狭いと思う。うつ病、認知症のほかにも、成人病なども大きな

課題なので、「などの」という言葉を付けるとか。あるいはうつ病、認知症を抜いて、「様々な疾患の早期発見」という格好でまとめてしまうという方法もあるが、そのあたりは正副分科会長に任せていただいてよろしいか。

○委員一同

はい。

○片岡靖子分科会長

では、できるだけ北里誠也委員の意見を盛り込み、文面については、こちらにらせていただくということでもよろしく願います。他に第6節のご意見等はないか。

第7節に移る。「やさしさと思いやりの見えるまち」で意見、質問等はないか。では、第7節については、変更がないということで。

「3 その他」のところ、意見、質問等はないか。なければこのままでいく。

では、これまでの議論を受けて、文面については、正副分科会長に一任いただければ助かる。よろしく願います。

■事務局

次回の審議会の全体会の日程について連絡
閉会